

Emergency



Watch

No.54 Jun. 2015



神戸こども初期急病センター

2015年5月受診者数：2931人

【訴え】

1. 発熱 : 1747人 (1364人)
2. 咳嗽 : 1231人 (242人)
3. 鼻汁 : 984人 (14人)
4. 嘔吐 : 607人 (268人)
5. 下痢 : 376人 (63人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 978人
2. 感染性胃腸炎 : 528人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 220人
4. 気管支炎 : 117人
4. じんま疹 : 117人

神戸こども初期急病センターの5月の総受診者は2931人でした。依然として、気道感染症や胃腸炎が主要疾患を占めており、ひきつづき、手洗いやうがいの励行をお願いしたいと思います。

今回は「急性ウイルス性結膜炎（はやりめ、プール熱、急性出血性結膜炎）」の話題を取り上げたいと思います。こどもに感染するだけでなく、おとなにも感染します。とても伝染性が強く、感染予防が大切な疾患ですので、ぜひ知っておいていただきたい疾患の1つです。

結膜には、しろめの表面である眼球結膜、まぶたの裏側である眼瞼結膜炎の2種類があります。結膜炎になると、眼球結膜が赤くなったり（充血）、まぶたの裏側にブツブツができて目やにや涙の増加、ゴロゴロ感が出現します。重症の場合には、しろめから出血をしたり、耳の前のリンパ腺やまぶたがひどく腫れることもあります。

Q1：結膜炎はなぜ起こるのでしょうか？

原因は、感染性もしくはアレルギー性の大きく2つに分けられ、いずれも結膜に炎症が起こることが要因です。感染性はさらにウイルス性と細菌性に分けられます。このうち、ウイルス性結膜炎について本号では説明します。

Q2：ウイルス性結膜炎の種類は？

代表選手は「はやりめ（流行性角結膜炎）」です。特に結膜炎症状が強く、目やにで目が開かないほどになります。最初は片目だけですが、多くは4～5日後に反対の目にも発症し、完治するまで2～3週間かかります。これまでの研究から、アデノウイルス8型、19型、37型、54型がその原因であることが知られており、近年では簡易キットが開発され、迅速診断が可能になっています。はやりめ以外にも、のどの痛みや発熱を伴うプール熱（咽頭結膜熱）（アデノウイルス3型、4型が原因）、しろめからの出血が特徴である急性出血性結膜炎（エンテロウイルス70型が原因）などがあります。いずれにしても、疑わしい症状がある場合には早めに医師の診察を受けることが重要です。

Q3：ウイルス性結膜炎の治療法は？

残念ながら、この病気に対する特効薬はありません。ウイルスに対する抵抗力をつけるため、休養をとって体力を落とさないことが必要です。また、補助的に細菌感染を合併しないように抗菌点眼薬や、炎症をおさえるためのステロイド点眼薬などを使用します。

Q4：ウイルス性結膜炎にかかってしまった場合はどうすればいい？

何より大切なことは、他の人にうつさないことです。ウイルス性結膜炎は学校伝染病に指定されており、はやりめと急性出血性結膜炎は医師の判断があるまで、プール熱は症状がなくなった後2日を経過するまで登校を禁止することになっています。社会人でも集団感染を防止する意味で、できるだけ仕事を休むのが望ましいです。

Q5：他の人にうつさないためには？

ウイルスは目をこすった手や目を拭いたハンカチなどを介して感染します。感染を予防するにはよく手を洗うことが何より重要です。目を拭くときはティッシュペーパーなどの使い捨てのものを使ってください。また、家族内での感染を防ぐために、タオルなどは別のものを使い、お風呂は最後に入るようにしましょう。